

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音／高山直樹さん

組合が取り組む後継者支援事業
(名古屋支所管内)

第22回 ロイヤル・ウィンター・フェア視察と
米国・カナダ酪農視察研修報告(前編)

栄えある秋の叙勲褒章



酪農トピックス／
「ただいま～です」復活!酪王まつり2014]4年ぶりに
開催!!(福島県酪農協より)ほか

日本酪農見て歩紀(北海道中標津町(株)佐藤牧場)



12

2014 December No.591



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.11

ホンネ

毎日が勉強 家族、そして仲間と共に歩む 酪農経営

今回は、**埼玉県本庄市 高山牧場**の後継者
高山直樹さんにお話を伺いました。



【経営概況】

所属 埼玉酪農業協同組合
家族構成 経営主の高山茂雄さん、奥様の文子さん、
息子の直樹さん
飼養頭数 経産牛100頭、和牛繁殖牛100頭

概要

今回取材させていただいた高山牧場は、埼玉酪農業協同組合に所属し、経産牛100頭、和牛繁殖牛100頭を飼養しています。祖父の代より酪農業を始め、昭和40年代に現在の対尻式牛舎を建設、旧牛舎に和牛を導入したのは約13年前になります。労働力は経営主の高山茂雄さん、奥様の文子さん、息子の直樹さん、アルバイト3人（2人/日のシフト制）の計6名です。今回は後継者である直樹さんにお話を伺いました。

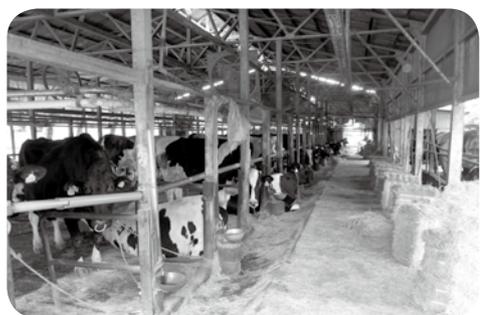
就農までの経緯を教えてください

私は高校を卒業後、大学に進学しました。その当時は将来就農したいという気持ちは薄く、またこれといった将来設計もありませんでした。大学を卒業後は1年程浪人していましたが、このままの生活ではいけないと思い、2002年に就農することを決意しました。

就農後の生活について教えてください

就農した当初、私は今まで酪農業に携わってこなかったため、一連の作業は父親に教わりながら取り組んでいました。当然ながら酪農の朝は早く、私の牧場は朝5時30分より作業が始まるので、最初は遅刻することも

◀ 搾乳牛舎

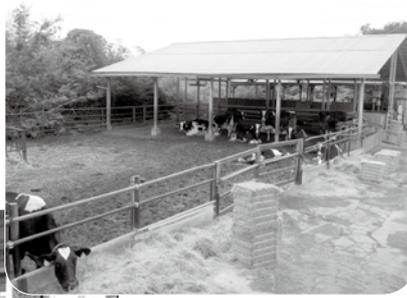
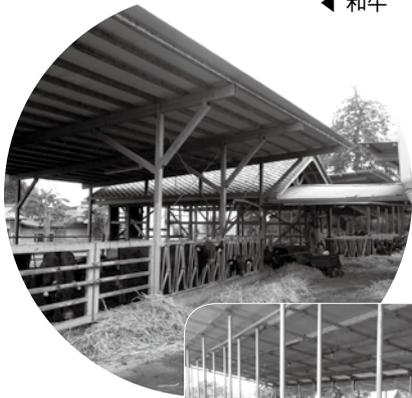


しばしばありました。当時の正直な気持ちとしては、自分から進んで作業に取り組んでいくわけではなかった。なので、モチベーションもあまり上がらなかったのですが、2003年に嫁さんと結婚、

2005年に長女が生まれたことを機に心境が変化しました。このままではいけない、父親らしくありたい、という気持ちが強くなり、自分から進んで作業に取り組むようになりました。酪農の楽しさ、やりがいを見出したのはその時期からですね。

やりがいを感じていること、また苦勞されたことはありますか

今まで酪農について知識が全くなかった私は、主に農協青年部主催が定期的に行っている勉強会や視察研修に積極的に参加するようにして、出来る限り情報収集に努めるようにしました。そのおかげで、知り合いも増えて情報網も広がりました。今でも経営決定権は父親にありますが、研修で得た知識、情報を



▲ 乾乳舎



◀ 哺育舎

自分でも試したいと思い、提案や改善案は随時、父親に持ちかけるようになりました。

私の家がある埼玉県本庄市は、日本でも有数の猛暑地域である熊谷市と程近く、夏場は非常に暑い日が続きます。そこで2年前より、暑熱対策として屋根の散水を行うようにしました。水は井戸水なので水道代は掛かりません。また同時期に細霧も取り付けました。そ

の効果は靦面^{てきめん}で、牛舎内温度をかなり下げることができました。

私の牧場では牛群検定を行っており、昔はとにかく一頭ごとの乳量を出すことにごこだわっていました。しかしそれでは体調を崩してしまう牛が増えていく一方で、現在はあまり無理をさせない(乳量を求めすぎない)管理に変えました。乳量は以前と比べれば減りましたが、事故も激減しました。一頭一頭を長生きさせるのは私のこだわりですね。

苦労しているのは、やはり近年、飼料高騰が続いていることですね。乳価がなかなか上がってくれないので、乳房炎をいかに出させないかが大事だと思っています。基本的な事ですが、1番は牛床の乾燥を徹底、糞は小まめに行うようにしました。それだけでも乳房炎の数は減っていますね。

また、繁殖の向上も課題としてあります。以前はオブシンクをしていたのですが、自然発情の方が種付きが良いので利用回数を減らしています。発情を見逃さないよう、作業の間、徐糞の際はなるべく牛を見るように心がけています。

時に父親との意見の食い違いもあります。が、互いの意見は尊重し合うようにしています。酪農は多種多様なやり方があるので、試したい時は随時行っていききたいですね。

今後の目標について教えてください

今後はソーラーパネルを設置し、電気代の節約をしようと考えています。頭数は現時点では増やす予定はありませんが、繁殖成績の向上は図っていきたくと思っています。そのためには日々の勉強、仲間との情報共有が大事になってくると思うので、これからも頑張っていきたいと思っています。息子とは将来一緒に酪農をやりたい気持ちには正直あります。こればかりは息子の意思を尊重したいので無理強いはしませんが、酪農の楽しさとやりがいは自分の子供たちには伝えていきたいですね。

具体的な目標を掲げ、それを着実に実践していく実行力と、家族の為にひた向きに酪農に取り組んでいる姿は非常に頼もしい直樹さん。取材中は笑顔でさわやかに対応してくださったのも非常に印象的でした。お忙しいなか、ご協力いただきありがとうございます。今後の牧場発展と直樹さんのさらなる活躍をお祈りします。

高山さんより 全国の若手後継者の皆さんへ 一言!

こんな情勢だからこそ、家族・仲間を大事にし、協力していきましょう。



組合が取り組む

後継者支援事業

第2回

レディースクラス&酪コン

名古屋支所管内

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（磯村光夫部長）は、11月9日（日）の愛知県酪農農業協同組合主催の第37回愛知県ホルスタイン共進会に合わせて、「レディースクラス&酪コン」と称した婚活イベントを愛知県畜産総合センター（岡崎市）で開催し、県内の独身女性9人が参加しました。

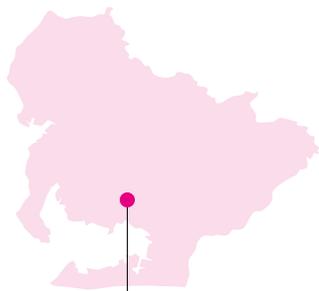
共進会前日の11月8日（土）から1泊2日の日程で行われ、1日目は酪農の基礎知識習得、センター内牛舎の見学に続き、牛の牽き方



▶ リーディング練習

◀ 夕食会

（リーディング）の練習を約1時間行いました。今回の目玉は一般女性に共進会で実際に牛を牽いてもらうことで、酪農理解醸成を図るのが目的とのこと。リーディングは初めてという女性たちに、独身の酪農青年達がそれぞれの参加女性に付き添い、優しく教えながら一緒に育成牛を牽くという微笑ましい光景でありました。初めてにしては呑み込みが早く、驚かせる女性メンバーもいらつしゃいました。続いて、調理室に移動し、同県酪農協女性部メンバーの先導による牛乳鍋、バター、裂けるチーズ造りや牛乳類の飲み比べで楽しい時間を過ごしました。男性からも女性からも「うま〜い！できた〜！」との歓声が上がるなど、打ち解けた雰囲気となっていました。



■主催
愛知県酪農農業協同組合
青年女性部

夕食会は翌日の共進会会場となる同センターのドーム横に張ったテントの中で行われました。一緒に作った牛乳鍋の他にも、焼肉、新鮮な野菜や女性部が準備した手造りの惣菜、スイーツ等、盛り沢山のご馳走を食べながら男女間の会話は一層親しく楽しく進行していききました。途中、明日の共進会の牛を見たいとのリクエストがあり、寒い中、牛の管理テントを訪れ、牛のことについて熱心に質問している姿には感心させられました。

2日目となる共進会当日。開会式から未經産牛第2部までを見学した後、未經産牛5部の後のレディースクラスへの準備となりました。入場入口で牛のモクシを手に取り待っている女性達の姿は流石に緊張しているように思えました。ところが、入場後のリードは、各女性に酪農青年がそれぞれ付いているとはいえ、なかなかつぱ



◀ レディースクラス本番



▶ 審査発表後の
集合写真

なもので、会場から「たいしたもんだねえ、うまいねえ」との声が聞かれました。リーディング中はプロフィールも紹介され、会場は牛よりも女性に注目しているように感じました。審査発表後、参加女性達はレディースクラス優勝の牛とともに、愛知県酪農協青年女性部と一緒に集合写真を撮り、残りのクラスを見学したあと、閉会式に臨み、解散となりました。今回参加いただいた方々には、酪農を理解し一層興味を持つていただき、2日間の酪農青年との出会いが色々な形で広がっていくことを祈念いたします。



第22回 **ロイヤル・ウィンター・フェア視察と
米国・カナダ酪農視察研修** 報告-前編-

平成26年11月12日(水)から19日(水)までの8日間、(一社)全国酪農協会主催の「第22回ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修」が開催されました。今年の視察参加者は、第43回全国酪農青年女性酪農発表大会の発表者5名を含む総勢10名。羽田空港での団結式を終え、研修1日目は12時間弱のフライトを経てカナダ・トロントへ到着しました。



研修2日目、バスでナイアガラからオンタリオ州のサミットホルム農場へ移動しました。案内していただいたのは、ベンさん(39)。ベンさんのお父さん、伯父さんと3人で協同経営を行っている牧場です。カナダの平均搾乳頭数が約70頭の中、ベンさんは総飼養頭数

視察1
**サミットホルム農場視察
(カナダ・オンタリオ州)**

● **行程表**

11月12日(水)	羽田空港よりカナダ(トロント)へ
11月13日(木)	ナイアガラの滝観光 サミットホルム農場(オンタリオ州)視察
11月14日(金)	ロイヤル・ウィンター・フェア視察
11月15日(土)	空路、米国(サンフランシスコ)へ 米国酪農情勢についての講演
11月16日(日)	ヒルマー・チーズ工場視察 トニー&ファティマ ガルシア牧場(カリフォルニア州)視察
11月17日(月)	空路、カナダ(バンクーバー)へ
11月18日(火)	空路、バンクーバーより成田空港へ
11月19日(水)	夕刻帰国、解散



◀ カウハッチが並ぶ



敷料として砂を使用

760頭、搾乳頭数370頭を飼養しており、フルタイム従業員5名、パート従業員数名を雇用しています。牛舎はフリーストールで、牛群は分娩間近の牛や産次数で5つに分けられています。12頭ダブルのミルクング・パーラーで1日3回（4時15分～、12時45分～、20時15分～）、1回あたり約4時間かけてパート従業員2名で搾乳し、1頭当たりの平均乳量は40kg/日、年間12,669kgの生乳を出荷しています。ちなみに、パート従業員は時給15～20ドルと、このあたりの最低時給約11ドルに比べると良い方だということです。また、近隣に50万人程度の町があり、学生な

どの人材が多く、従業員には困らないとおっしゃっていました。

また、770haの畑でトウモロコシとアルファルファを作付することで、飼料は自給飼料で賄えており、飼料費は6.5ドル/頭・日で済むとのこと。なにより経費がかかるのは、生乳を生産する権利を購入する費用とのことで、例えば1頭増頭するのに年間3万ドルも必要とのこと。ただし、この制度のため、市場は生乳が余りすぎることなく、政府からの補助金がなくとも乳価は75セント/Lと、年間を通し安定しているそうです。

この牧場は、1937年にベンさんの祖父がカナダへ移り住み、1947年から酪農を開始し、ベンさんで3代目となります。カナダでは、後継者はあらかじめ自分の家を継ぐと考えているのが一般的とのこと、ベンさんも一度は他の仕事に就いたものの、3年で牧場に戻ったと話されていました。設備よりも牛に時間をかけ、大事に育てる経営方針で、他にも経営理念としてアニマルウェルフェアや環境保護、地域貢献を掲げてありました。その理念の通り、ストールには敷料として13ドル/トンで購入している砂が用いられ、肢蹄への負担を軽減する工夫が見られました。ただし、「砂により機械が摩耗してしまうのが欠点だ」と笑いながら話されていました。全ての牛に万歩計をつけ、発情発見に努める

と共に、搾乳でもミルクの付け方・時間・搾乳量などを記録し、従業員に月謝を支払う際に渡すことで、従業員1人1人の気づきに繋げる工夫もされているとのこと。さらに、分娩後55日から種付けを行い、65日以上たつても発情しない牛にはPGを投与するそうです。

1ヶ月前に建

てたという新設牛舎も見せていただきました。250万ドルかかったという新牛舎は、屋根に断熱材を用い寒さをしのぎ、さらに自然光を入れる構造にしたとのこと、とても明るい牛舎でした。新設牛舎では、密飼いが軽減された事で横臥時間が1日10時間から13.5時間へ増えるという一定の成果は見られたようですが、床がセメント構造ということもあり、肢蹄への影響について今後も経過観察をしていきたいと話されていました。どの個体もリラックスしており、手入れの行き届いている牛舎と牛群が印象的でした。



新設牛舎とベンさん

視察2

ロイヤル・ウィンター・フェア視察

ロイヤル・ウィンター・フェアは、カナダのトロントで開催される世界最大の屋内農産物品評会です。今年は11月7日～16日まで開催され、期間中は北米全域から集められた様々な農産物の展示・品評会が行われるほか、犬の演技、馬車の競争やロデオなど、動物による競技も行われます。今回は、メイン会場

でナショナル・ホルスタイン・ショーが行われる11月14日に視察しました。会場内は様々なブースが立ち並び、来場者を楽しませてくれます。馬術関連の出店が最も多いことには少し驚きましたが、酪農関連はもちろん、衣類や雑貨品、車やトラクタの展示場も軒を連ねていました。農産物も、トウモロコシ、麦、大豆、牧草や、巨大かぼちゃを始めとする様々な野菜、さらにはバターで作る彫刻まであり、それぞれに順位が付けら

れていました。家族連れやスクールバスでやってきた小学生と思われる一行なども多数来場するためか、アルパカやヤギと触れ合うミニ動物園や、卵ができるまでの過程を並べたパネルなどがあり、目で見て楽しい展示が多いように感じました。

当日はホルスタインだけでなく、別会場でジャージーやブラウンスイス種の共進会も行われていました。控え牛舎も自由に行き来でき、出品前に丁寧に管理されている牛達の様子も観察することができました。

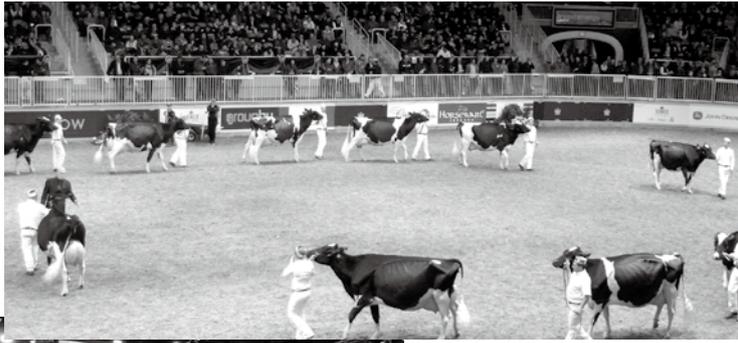
ホルスタインの共進会は、さすがに最高峰の舞台という雰囲気、どのクラスも骨格の大きい綺麗な牛が並んでおり、上から舞台を見下ろすよりも、実際に牛の近くに立って大きさを実感したい衝動に駆られました。審査員3名がじっくり一頭一頭を観察した後、合議により順位が決定されていました。

共進会の最後を飾るグラントチャンピオンの審査では、会場の照明が落とされ、鮮やかなライトが縦横無尽に駆け巡り、スポットライトに照らされながら牛たちが入場しました。審査発表前には手拍子も行われ、RFゴールドウイン・ヘイリーが見事グラントチャンピオンに輝くと、会場全体が大きな拍手と歓声に包まれました。

※後編は来月号に掲載いたします。

(全酪連 指導・企画部 加世田しずか)

▶ ナショナル・ホルスタイン・ショー



◀ メイン会場全体の様子



▲ スポットライトに照らされながらの入場

▶ グラントチャンピオンに輝いた牛



▶ 触れ合い動物園



▲ 卵ができるまでの過程

栄えある秋の

叙勲 褒章

政府は10月下旬、秋の叙勲・褒章受章者を発表しました。
全酪連関係者からは、次の方が受賞の名誉に輝きました。心から
お祝い申し上げますとともに、益々のご活躍をお祈りいたします。



●旭日双光章●

石川 富雄 氏

元 愛知県酪農農業協同組合連合会 理事
元 愛知県酪農農業協同組合 理事
元 東海酪農農業協同組合連合会 代表監事
現 西尾市畜産振興会 会長



●旭日双光章●

谷内 紀明 氏

前 石川県酪農農業協同組合 代表理事組合長
前 北陸酪農農業協同組合連合会 副会長



●黄綬褒章●

岡田 禮治 氏

現 石川県家畜人工授精師会 会長
前 日本家畜人工授精師協会 監事



叙勲の祝賀会



褒章の祝賀会

札幌
支所発

「北海道酪農青年女性秋季研修会」開催

11月4日(木)、札幌市の京王プラザホテル札幌において「北海道酪農青年女性会議秋季研修会」が開催され、委員・一般参加者併せて8名が参加しました。

今回は講師に料理家・管理栄養士・フードビジネスコーディネーターの小山浩子先生をお招きし、「乳和食 (New Washoku)」として牛乳の効能と牛乳をレシピに取り入れた和食料理についてご講演いただきました。

講演の中で、小山先生は現代人の塩分の取りすぎを指摘され、牛乳を和食レシピに取り入れれば味を損なわずにおいしく減塩ができると説明されました。講演の最後にはマヨネーズの代わりに牛乳とすし酢をつかったポテトサラダを試食し、参加者からは「美味しい」「牛乳を



◀ ポテトサラダの調理



▶ 講演の様子

使っているとは思えない」と言った声が聞かれました。

(T.K)

新規就農 経営移譲

を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓
右下リンク

↓
新規就農情報 [(一)酪農ヘルパー全国協会]
新規就農情報 [全国農業会議所]

福島県酪農協より

「ただいま～です」復活!酪王まつり2014」 4年ぶりに開催!!

9月28日(日)、酪王乳業(株)本社工場にて、4年ぶりに「ただいま～です」復活!酪王まつり2014」が開催されました。開場10分前にはオープニングセレモニーが行われ、主催者を代表し、大竹芳雄酪王乳業(株)社長が「4年5か月ぶりの開催となり、みなさんも楽しみにしていたと思います」と挨拶されました。続いて、大竹芳雄代表取締役社長、阿部正一取締役副社長、但野忠義県酪農協代表理事組合長が、1番乗りで会場へ来ていた来場者と共に巨大クラッカーのひもを引くと、開催を告げる大音響と同時に金色のテープが勢いよく発射され、開場を待ちわびるたくさんの来場者とともに、4年ぶりの復活を喜びました。

終日、秋晴れの天候に恵まれ、たくさんの家族連れや酪王カフェオレファンたちが来場し、開場わずか30分で1,000人が来場するなど、大いに賑わい、1日を通して7,000人の方々が「酪王まつり」に足を運んでくださいました。

特に盛り上がりを見せていたのは、大人気の参加型ステージイベントで、MCのパチッコリン(みちのくボンガーズ)が、牛乳早飲みバトル・搾乳タイムバトルを盛り上げ、個人戦や家族対抗戦が行われると、会場では歓声と笑いが絶えないほどの盛り上がりを見せていました。

また、特設カフェオレブースでは、酪王カ

フェオレと酪王ハイカフェオレの試飲が行われ、何度も飲み比べをする来場者も見られました。酪王カフェオレを使ったお菓子の販売や酪王カフェオレトートバックなどのオリジナルグッズの限定販売、特設酪王牛乳ブースでの酪王牛乳ラスクやサブレなどの酪王製品即売コーナーでは、長蛇の列ができるほどで、両手にかかえきれないほどの牛乳・乳製品を買い求める来場者の姿が見られました。試飲コーナーには、11月10日に新発売される「酪王いちごオレ」の試飲も行い、発売を楽しみにする姿が見られ、早速、ツイッターやフェイスブック等に投稿している方なども見られました。

ステージ横に設置されたメッセージボードには、酪王まつりに開催に伴うメッセージなど思い思いにコメントを頂きました。他にも、紙パック工作コーナーや実際の乳牛からの搾乳体験、子牛や山羊に直接触れ合うミニ動物園など様々なコーナーが設けられ、たくさんの来場者の笑顔が溢れていました。

来場者の中には、県内を初め、県外の酪王カフェオレファンの皆さんも来場していただくなど、安全・安心な牛乳乳製品を製造販売していることをPRすることが出来ました。来年も「酪王まつり」を楽しみに待ってくださる皆様とお会いできますことを楽しみにしております。(W.H)

オープニングセレモニーを行い、巨大クラッカーで盛大に、「ただいま～です」復活酪王まつり2014」の4年ぶりの復活を喜びました。



▲秋晴れの天候に恵まれ、たくさんの家族連れや酪王カフェオレファンなどの来場で大いににぎわいました。



▶会場に設置されたメッセージボード



◀ステージイベントの搾乳タイムバトル



▲大人気のカフェオレブース・牛乳ブース!!

本所発

(一社)全国酪農協会主催 酪農後継者が集う「酪農未来塾」3回目を開催!!

11月6日(木)～7日(金)、東京都港区南青山会館にて(一社)全国酪農協会主催の「酪農未来塾」が開催されました。3回目となる今回の研修では、今までの参加者を中心に全国の酪農後継者・酪農団体など56名が参加しました。

始めに、参加者が円になり、前回立てた目標とその進捗状況を報告し合うことで、久々の再会を喜び、打ち解けあう姿が見られました。その後、本会購買部酪農生産指導室 丹戸靖課長代理と同部酪農技術研究所猪内勝利研究員による講演へと移りました。丹戸課長代理は「“気づき”と共有から始まる経営発展の仕組み作り～うちの牧場は、どうして手元に現金が残らないのか?～」と題し、手元に現金が残らない理由を各牧場で明確化する必要があることに触れ、定期的に経営状態を計る必要があ



◀ 身の上話に真剣に耳を傾ける

ることから、本会のDMS(酪農家経営管理支援システム)の紹介が行われました。そして、その結果何が起こったかを“見える化”し、自身の経営の問題点に気づき、共有し合える環境を作ることの大事さを、実例を交えて紹介されました。



▲ 農家さんによる身の上話

続いて、猪内研究員は「酪農経営向上のために～経営・技術・コミュニケーション～」と題し、自身の酪農実習生の体験や代表取締役牧場長として大規模酪農経営に携わった経験をもとに、「今日儲からない酪農は明日も儲からない」とのマイペース酪農で知られる三友盛行氏の考えを紹介しながら、経営改善のための実践的なノウハウ、マネジメントについての解説がなされました。

その後は前回に引き続き、農場どないすんねん研究会(NDK、正式名称:全国畜産支援研究会)が進行を務め、指名された数人が「身の上話」を行い、皆で質問を投げかけるワークショップを行い、互いの牧場や考え方について深め合いました。

2日目は、「なりたい自分になるための未来塾分科会」と題し、「自分に素直になる」「酪農技術を磨く」「未来塾を良くする」など複数のグループに分かれ、酪農の未来を真剣に議論する姿があらこちらで見られました。

(K.S)



▲ 本会 丹戸靖課長代理



▲ 猪内勝利研究員



▲ 講演会での様子



▲ 発表会の様子

東京
支所発

「第5回 東京支所管内会員女性職員研修会」開催

今年で5回目となる、全酪連東京支所管内の会員女性職員を対象とした研修会を、10月16日(休)・17日(金)の2日間にわたり、群馬県にて開催いたしました。今年も14名の方々にご参加いただき、職員間の交流を図るとともに、工場等の視察を通して酪農の専門知識を深めることのできる貴重な場となりました。

1日目は、高崎駅よりバスで20分ほどの場所にある赤城酪農業協同組合連合会を訪ねました。最初に、須藤裕一副会長より赤城酪連の概要説明をいただき、その後、TMRセンターの概要及びTMR製品について研修を受け、実際に工場でのTMR製造の状況を視察しました。倉庫には、普段の業務の中で手配している飼料の紙袋やトランスバッグがたくさん積まれていて、工場内ではコンビラップを用いたTMR製造が行われていました。この時に見ることができたのは、とうふ粕やきのご菌床粕、ふすま等で、これらの原料をミキサーにて攪拌後、糖蜜が添加され、コンビラップでラッピングされるというTMR製造の一連の工程を学ぶことができました。

夜は伊香保の宿・玉樹で懇親会を行いました。夕食を食べながらのビンゴ大会や、普段お話ししないような趣味の話などで盛り上がり、お互いの知らなかった一面を知ることのできる新鮮な機会となりました。



赤城視察の様子



懇親会の様子 ▶

研修で飲み比べた3つの牛乳 ▶



▲ 東毛酪農にて集合写真

2日目には、東毛酪農業協同組合を訪ね、牛乳や乳製品が製造されている工場の様子を視察しました。東毛酪農協の工場で生産されている約半数が、学校給食で使用されているものだそうです。視察後、木村弘常務より研修を受け、HTST(高温殺菌)牛乳・LTLT(低温殺菌)牛乳・生乳の飲み比べをしました。HTST牛乳は学校給食で使用されているもので、普段飲み慣れているせいか、1番人気でした。LTLT牛乳は搾りたてに近いもので、生乳に近い味がしました。また、普段動物の肉や魚など命を頂いている我々にとって、「牛乳とは神が人間に与えてくれたもっとも完全に近い食品である」(牛乳を飲んではいけないという宗教は1つもない、生まれながらにして食べる・飲むことのできる命にやさしい食品である)という理念を学び、牛乳のありがたみや、酪農業の仕事に携わっていることの誇りを実感しました。研修の後、東毛酪農協のコーヒー牛乳とソフトクリームを美味しく頂きました。

この2日間を通し、普段は見ること・聞くことのできない貴重な体験ができ、とても有意義な研修会となりました。また、直接お会いする機会の少ない会員女性職員の方々と交流できたことを大変嬉しく思います。お忙しい中ご協力くださいました、赤城酪農業協同組合連合会・東毛酪農業協同組合の皆様、遠方より足を運んでくださいました、会員職員の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(I.M)

名古屋
支所発

講演会「美しい女性であるために」を開催 — 中部酪農青年女性会議 —

10月22日(木)、中部酪農青年女性会議(小笠原和美委員長)は名古屋市内で講演会を開催しました。今回は、酪農女性を対象に、「美しい女性であるために」の演題で、モデルの本名由香里氏を講師に招聘しました。参加者は殆どが女性の37人で、酪農のことをしばし忘れて“美”を追求する時間となりました。

本名氏は、2008年ミスユニバース日本第2位の実績を誇り、東京ビューティアート専門



▲ 本名由香里氏

学校他の講師を務めると共にファッション雑誌やテレビ等で活躍されており、美しい表情、姿勢、歩行について実演を中心



▲ 研修会の様子

▲ 美しい姿勢、表情での集合写真

に講演し、最初は少々恥ずかしがっていた女性達も、徐々に慣れ真剣にコツを習得し、歩く姿も美しくなっていました。

最後に、本名氏を交えて美しい表情で集合写真に収まり、美しい歩行で退席し、帰路に着きました。

男性のひとりとしても、酪農女性がいつまでも元気で美しく輝いて欲しいと改めて思い願う1日でありました。(F.K)

名古屋
支所発

「カウガールスクールin原田牧場」開催

愛知県酪農農業協同組合の酪農教育ファーム推進委員会(伊藤立委員長)では、口蹄疫等で防疫面での規制が厳しくなり、不特定多数の消費者を対象とした牛とのふれあい活動が制限される中で、酪農教育ファーム活動の推進方法について議論されています。その中から新たな取り組みとして、東京八王子の磯沼牧場をモデルとして、愛知県版のカウガールスクール(牧場体験する一般女性の呼称)を模索しています。

活動の2年目となる平成26年度は、東浦町の原田牧場、西尾市の北村牧場、豊田市の久保田牧場が自主的に参加を表明し、それぞれに活動が進められています。年3~4回、同じ牧場で酪農体験をして頂き、単発の体験ではなく、より深く酪農を知ってもらえる設定になっています。牧場体験をして頂く一般女性は2~3名のため、海外渡航歴のチェックもでき、牧場側が用意した靴や



▼ 牧場体験説明



▼ 搾乳体験

服に着替えてもらうなどして防疫面をクリアしているとのこと。そして、その体験をこのように地域に伝え広がりを持たせるのが、カウガールスクールのねらいです。

今回は、愛知県東浦町の生路保育園(園児133名)の先生2人が、同町の酪農教育ファームの原田牧場において2日間、飼料給与、除糞、哺乳、搾乳等を体験しました。「今後は是非、原田牧場に園児たちを連れて行き、実際の牛を見せてあげたい」との園長の言葉にスタッフメンバーは大変喜んでいました。

牧場体験後の11月6日(木)、原田牧場のカウガール(先生)2名が勤務先の保育園の園児達にその体験内容等を紙芝居で伝え、それから園児たちと一緒にミセスHカップさん(模擬搾乳体験機)による搾乳体験やバター作りを楽しみました。(F.K)

福岡
支所発

「第6回九州連合ホルスタイン共進会」を盛大に開催！

— 九州・沖縄地区酪農団体協議会 —

九州・沖縄地区酪農団体協議会（尾形文清会長）では、11月15日（土）、熊本県家畜市場（熊本県菊池郡大津町）において「第6回九州連合ホルスタイン共進会（農林水産祭参加行事）」を盛大に開催しました。



▲ 尾形会長の開会あいさつ

本共進会は5年ごとに開催し、九州・沖縄各県の乳用牛の改良水準を見極め今後の改良上の参考とすることを目的としています。また、今回は来年に北海道で開催される第14回全日本ホルスタイン共進会へ向けた基盤体制を整えるものでもありました。

前日14日（金）には前夜祭が開催され、九州・沖縄地区酪農団体協議会役員、ご来賓の方々、各県の出品者や組合職員等の関係者が集い、九州・沖縄の酪農の連帯と親睦を深めました。

そして、共進会当日15日（土）、寒冷前線の接近から相当な寒さが心配されていましたが、朝から穏やかに晴れ渡り、絶好の共進会日和となりました。

開会式では、九州・沖縄地区酪農団体協議会の尾形会長より「本共進会は、九州・沖縄の乳牛改良の優秀さを全国へ発信する場である。また、九州・沖縄の酪農生産者の団結の場となり、交流が深まれば幸いである」と開会の挨拶がありました。

続いて、来賓の九州農政局・井上明局長より「本共進会が多大な成果を収め、九州・沖縄が来年10月に開催される第14回全日本ホルス



▲ 審査風景



◀ グランドチャンピオン



◀ ジュニアチャンピオン

タイン共進会で活躍されることを祈念する」と祝辞を賜りました。

本共進会の審査員は北海道ホルスタイン農業協同組合・審査部長である千葉義博氏にお願いし、九州・沖縄各県から選りすぐられた総数153頭が12部（未經産牛5部、経産牛7部）に分かれ、厳正な審査が行われました。

※審査結果については別表のとおり。

◎グランドチャンピオン

（第6部～第12部）

KAHS メーヤス プリッツ カイト M フタゴ
出品者：菊地農業高校（熊本県）

◎リザーブチャンピオン

（第6部～第12部）

ホームステッド アイオーン アイオーン フタゴ
出品者：松島太一氏（熊本県）

◎ジュニアチャンピオン

（第1部～第5部）

ドリーム アイオーン ハーゲン
出品者：松野佑哉氏（熊本県）

◎ジュニアリザーブチャンピオン

（第1部～第5部）

レガール MF ゴールドチツプ フェイス
出品者：竹内太輔氏（熊本県）

福岡
支所発

「第31回らくのうマザーズ枝肉共励会」を開催 — 熊本県酪農業協同組合連合会 —

熊本県酪農業協同組合連合会(吉田孝壽代表理事
事会長)は、10月24日(金)、株式会社熊本畜産流通
センター(熊本県菊池市七城町)において「第31
回らくのうマザーズ枝肉共励会」を開催しました。

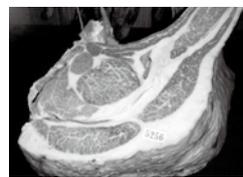
この共励会は、乳肉複合経営による良質牛肉生
産と酪農経営の安定的発展を期し1983年(昭和
58年)から開催されているものですが、今回は
乳用種(第1部)35頭、交雑種(第2部)9頭、
黒毛和種(第3部)16頭の計60頭が出品され、
出品者及び関係者ら150名が来場しました。

今回、栄えあるグランドチャンピオン賞を受
賞したのは、黒毛和種(第3部)に出品された
熊本酪農協の新永文治氏で、枝肉格付は最高ラ

左から重昭さん、文治さん、
恵子さん(文治さんの奥様)



ンクのA-5、脂肪交雑も
最高のBMSNo.12を獲得
されました。新永牧場で
は、父親の新永重昭氏か
ら数えて4度目のグラン



▲ グランドチャンピオン賞
ドチャンピオン獲得となりました(歴代最多受賞)。

また、リザーブチャンピオン賞を受賞したのは、
交雑種(第2部)に出品された荒尾酪農協の蓮
尾亮介氏で、枝肉格付はA-3を獲得されました。

なお、グランドチャンピオン賞(枝肉重量
557.3kg)は1kg当たり4,050円、リザーブ
チャンピオン賞(枝肉重量524.3kg)は1kg当
たり2,540円で競り落とされています。(I.F)

福岡
支所発

「第39回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会」 沖縄県酪協2チームが優勝、準優勝を独占!

11月1日(土)~2日(日)の2日間、ユインチホテ
ル南城(沖縄県南城市)において、九州・沖縄
地区酪農団体協議会(尾形文清会長)主催によ
る「第39回九州・沖縄地区酪農団体職員親善ス
ポーツ大会」が開催されました。

この大会は、九州・沖縄地区の酪農団体職員の
資質の向上と親善ならびに団結を図ることを目的
として毎年開催されているものですが、今大会は
初めての沖縄県での開催となりました。



◀ 試合中



大会後の昼食で登場! ▶

恒例の前夜祭は、来賓として沖縄県農林水産
部畜産課の長崎祐二課長、全酪連から砂金基太
郎代表理事会長、清家英貴専務理事、そして大
会役員等を迎え総勢140名により盛大に開催さ
れました。

翌日は、心配された雨もなく、快晴のもとでグ
ラウンド・ゴルフをスタート。この親善スポーツ
大会では初めて行うグラウンド・ゴルフでしたが、
各チームとも真剣勝負で臨みました。

優勝は地元の沖縄県酪農農業協同組合2チ
ームが優勝と準優勝を独占するという劇的な結果と
なりました。また、3位には宮崎県経済農業協同
組合連合会チームが入りました。

最後に、次回開催県となる熊本県から、熊本県
酪農業協同組合連合会の吉田孝壽代表理事会長
が閉会の辞を述べ、来年の再会を約束し今大会
の幕を閉じました。(I.F)

全酪連会員職員研修会

会員組織の機能強化のため、会員職員のスキルアップを図ることを目的とした会員職員研修会を下記2カ所にて開催し、2講演を実施しました。

【東日本】11月5日(水) 全酪連本所(東京都港区)

約30名参加

【西日本】11月6日(木) ホテルJALシティ広島(広島県広島市)

約20名参加

前半は日本農業新聞・元論説委員室長の伊本克宜氏による「新農政・TPP・農協改革 課題と今後の方向」についての講演が行われました。

概要

政府の規制改革会議の当初農協改革案において、①中央会制度の廃止(JAへの指導力・農政活動の弱体化)、②全農の株式会社化(民間企業との競争条件同一化)、③准組合員の事業利用の制限、代理店方式などの導入(事実上の金



▶ 伊本克宜氏

▶ 東日本会場

融・経済の分離)という提言が盛り込まれるなど、大規模な農業改革案が叫ばれている。その焦点が、農協法に記されている中央会機能の位置づけを廃止することであり、それにより全中を無力化させ、ひいてはTPP締結を進め、政府の指示通りの農政推進、企業参入促進などの狙いがある。「官邸主導」による新自由主義路線の極みがこの回の農協改革で浮き彫りになったと言えるだろう。だが、農協改革の「真の狙い」である農業者の所得向上と地域振興とは全く逆の方向と言わざるを得ない。安倍政権の掲げる農業・農村の所得倍増計画とも整合性が取れない。農協改革と専門連との関連では、万が一にも全農株式会社となれば現在機能している生乳の全国連再委託機能が独

禁法違反となる可能性があり、酪農振興、生乳需給調整にも支障をきたすだろう。衆院選挙や米国議会の中間選挙でのオバマ政権の歴史的な敗北などを踏まえ、年末から年明けに向けTPP・JA改革・外交問題が複雑に絡みあいながら、議論は加速化していくだろう。

※11月5、6日時点での講演内容であることを追記いたします。また、概要については伊本氏ご本人によるものです。

後半は、一般社団法人中央酪農会議 専務理事の迫田潔氏による「酪農を取り巻く情勢についての講演」が行われました。

概要

酪農家戸数は、減少率4%程度で生産量も減少しており、規模拡大による生産維持も限界に近づいてきている。また、生乳生産費における飼料費は、H24年/H23年比で105%だが、輸入粗飼料価格は110%を上回って推移しており、WCSなどの国産飼料への切り替えのほか、低価格飼料への切り替えや乾牧草のランクを下げて対応していることが想定される。そのためか、バルク別乳成分において酪乳脂肪4%未満を生産する酪



◀ 迫田潔氏

◀ 西日本会場

農家の割合が増えている。H24年度の生乳生産費の償却費も前年を2割以上下回っており、設備投資が進んでいないことが窺える。H24年平均産次は2.7産と減少傾向であり、分娩間隔も年々拡大し、全国平均で430日を超えている。

世界に目を向けると、直近の乳製品国際価格は低下傾向だが、需給情勢によって短期で価格が乱高下しており、中長期的にはひっ迫見込みである。そのため、補助事業も活用しながら、酪農生産基盤のこれ以上弱体化を防ぐべく関係者と一体となって取り組んでいく所存である。

なお、当研修会のご質問、資料請求のご希望がございましたら、全酪連指導・企画部もしくは各支所指導組織課までお問合せください。



No.259
 (株)佐藤牧場
 北海道中標津町

右側より、佐藤擴さん、藤原智樹さん、友貞さん(授精師)、黒川さん、斉藤さん、藤原和美さん ▲

信頼がつなぐ府県との絆

地域について

今回ご紹介する(株)佐藤牧場は、釧路市から北東約100kmに位置する中標津町にあります。夏は平均20度前後、冬は平均マイナス10度前後の冷涼な気候です。南部には広大な根釧台地が広がりますが、火山灰土のやせた土地と海霧による短い日照時間のため、酪農が基幹農業となっています。北海道遺産に認定された格子状防風



牧場全景



林や、ライダーの聖地といわれる開陽台などの観光スポットが有名です。

佐藤牧場は中標津町農業協同組合(高橋勝義代表理事組合長)に所属しています。管内生乳出荷戸数は179戸、管内出荷乳量は12・6万t(ともに平成25年度成績)となっています。

牧場の概要

(株)佐藤牧場は預託育成牧場として運営しており、兵庫、愛媛、千葉など全国から受け入れた仔牛を育成しています。(株)佐藤牧場は昭和五年に擴さんのお父さんが宮城県から中標津に入植したのが始まりです。当初は畑作との

複合経営をしていましたが、入植後に大冷害が発生。北海道の穀物主体化から酪農主体への政策転換もあり、酪農主体の経営になりました。その後、擴さんが経営を継ぎ、最終的には搾乳牛48頭の規模になりましたが、平成11年ごろに体調を崩し、搾乳業を廃業します。その後、預託育成事業へと転換し、現在の経営体制になりました。

労働力は経営者の佐藤擴さん(70)と弟の等さん(64)、藤原智樹さん(40)、和美さん(41)ご夫妻、従業員の斉藤安則さん(54)と黒川新悟さん(41)の6名になります。

飼養管理について

現在、牧場では750頭の育成牛を預かっています。今は下牧の時期なので少ないですが、春先の上牧が多い時期には800頭を超えます。「草が一番大事」という考えから、北海道産牧草を中心に牛の状態や季節に合わせて配合飼料をベースにした混合飼料を給与しています。飼料価格の



手作りのD型牛舎

高騰もあり、今年からは獣医師や全酪連の推進担当と相談しながら牛のコンディションを落とさないようにサイレージ主体へとシフトしつつあります。牧場内には大小21のD型倉庫を転用した育成舎(内、1戸はホスピタル)とパドックがあり、月齢や健康状態で分けられた牛たちがのびのびと運動しています。これらの牛舎は近所の離農した牧場など



パドック

から廃材を集め、擴さんが組み上げたものだそうです。もともとこういった建築が好きとのことで、測量からコンクリートの基礎打ちまでこなします。最近では新規就農者から依頼があり堆肥舎を作ったそうです。そのために会社の事業目的に「建築業」を加えたとの事でした。他にも、写真では紹介しきれませんが、敷地内には擴さん自身が作製した



サイレージのミキサー給与

様々な用具を見ることが出来ました。

飼養方針は牛をベストコンディションに保つことと顧客の要望に沿うことを第一としています。擴さんには牛飼いととしての長年の経験と飼養のコツがありますが、それは顧客も同じこと。それぞれは牧場のやり方があり、特に種付けに関しては使用する精液、卵子、月齢など細かに分かれて



よく人なれしています

います。それらをすり合わせ、一頭一頭の牛の状態をよく観察したうえで、できる限り要望に沿った飼養を心掛けているとのこと。 「お客さんの紹介を通じてくる新規も多い。その牛をダメにしてしまえば、新規だけでなく、紹介をしたお客さんの顔もつぶすことになる。だからきちんとしないとダメだ」と擴さんは語ります。

「お客さんとの信頼がとても大事」と擴さんは言います。また、お互いの考え方を共有するために、ほとんどの顧客と顔を合わせる様に心掛けています。顧客が北海道に来ることがあれば、牧場を見てもらい、それが無理な



牛舎内

場合には擴さんの方から本州へ向き、本人と顔を合わせて話をするそうです。生き物を扱う仕事である以上、どんなに気を付けていても事故や病気になる牛が出てしまうことはあります。そういったときに信頼関係を築いておけば、顧客も納得してくれるそうです。

預託牛はあちこちの牧場から送られてくるため、生育状況がまちまちの牛たちが集まってきます。中には離乳して間もない2か

月齢程度で預けられる牛もいるとのこと、環境変化等の様々なるストレスの影響により、その後の発育や種付けに遅れが出てしまう場合もある様です。出産直後の子牛の飼養管理ばかりは、佐藤さんの方ではどうしようもありません。そこで、獣医師と共に兵庫に赴き、顧客を招いて勉強会を開いた事もあるそうです。少人数での催しでしたが、相手とのコミュニケーションがしっかりとれ、顧客側の意見も聞けたので非常に有意義だったとのこと。その甲斐あって、今では上牧される仔牛の状態は劇的に改善し、事故や病気も格段に減ったと言います。

擴さんに預託事業と搾乳事業について違うと感じる点はどのようなものか尋ねたところ、「預託事業の方が経営者としての実感を感じ、生乳は出荷してもどこでどう使われるかまではわからず価格も自分では決められません。ですが、預託事業は顧客の顔が直に見え、終端まで自分たちが関

わることができません。その点で責任をよりはっきり感じ、経営をしている実感があると仰っていました。

牧場の今後について

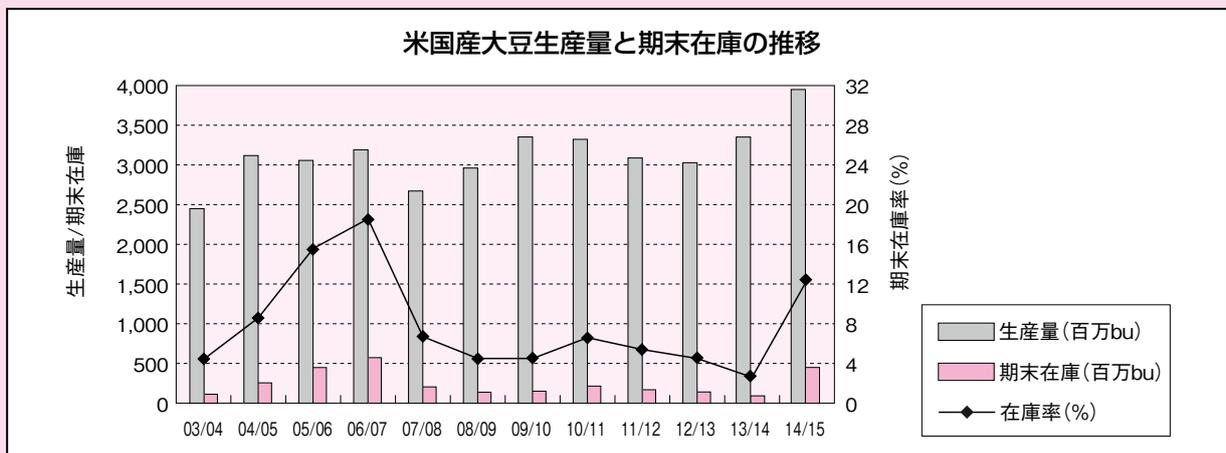
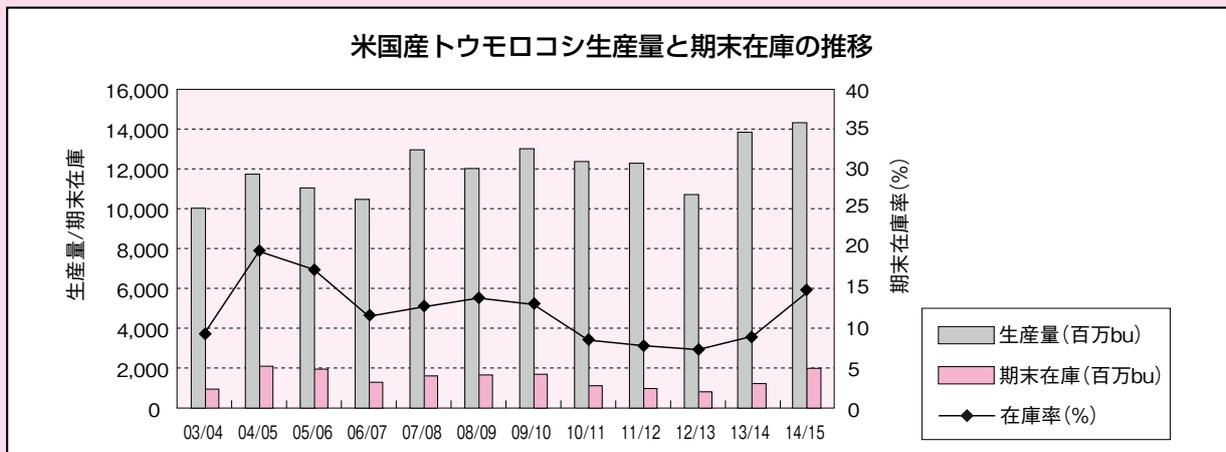
今後の目標としては、規模を拡大して1,000頭まで受け入れることの出来る預託育成牧場を作ることが目標との事です。すでに次に建てるD型倉庫の資材については準備されている様で、来春早々には建設を計画しているとの事です。

最後に

下牧時期を迎えお忙しい中、快く取材に対応してくださった擴さんと藤原さんご夫妻にお礼申し上げます。ある意味ではより細かな対応が求められる預託牧場を、責任感を持って運営される擴さんの姿勢には非常に感銘を受けました。末尾となりましたが、これからも酪農地盤を支える預託育成牧場として、(株)佐藤牧場の益々の発展を心からお祈りいたします。

原料情勢 平成26年11月

11月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8 (158.8) bu/エーカー、生産量139億2,500万 (139億2,500万) bu、総需要量135億4,600万 (135億4,600万) bu、期末在庫12億3,600万 (12億3,600万) bu、在庫率9.1(9.1)%。</p> <p>【14/15年産】 作付面積90.9百万(前月90.9百万) エーカー、単収173.4(174.2)bu/エーカー、生産量144億700万(144億7,500万)bu、総需要量136億6,000万(136億5,500万)bu、期末在庫20億800万(20億8,100万)bu、在庫率14.7(15.2)%。</p>
トウモロコシ 相場動向	<p>シカゴ相場は降雨による収穫遅れが材料視され上昇基調となり、更に投機筋が穀物市場に参入した事により強気で推移し、370¢前後の値動き。14/15年産の単収の下方修正要因は主に生産地の天候悪化であり、また需要面ではエタノール需要が増えたため在庫率の減少につながった。相場を左右すると思われる投機筋は買い手に回っており、相場は上昇基調で推移していくと見られる。</p>
11月10日発表 米国農務省 大豆需給予想	<p>【14/15年産】 単収増予想から生産量は増加。需要も国内・輸出ともに上方修正され、期末在庫4億5,000万 (4億5,000万) bu、在庫率12.4(12.6)%。</p>
大豆粕相場動向	<p>米国では史上最高の豊作見込みとなっていたが、投機筋の買い戻し、米国・南米の収穫期の天候不安を背景に、シカゴ大豆相場は10月以降値上がりしている。今後も豊作による需給緩和が期待されるが、現在の範囲内で価格は推移するものと思われる。国産大豆粕は、発生量は例年並みだが、PEDの影響により低調であった飼料需要が回復傾向にあり、需給は締めつつある。主な輸入元である中国は、日本向けに入船手当をしており、徐々にタイト感は緩和される見込み。価格は強含みが予想される。</p>
槽糠類	<p>国産フスマは、小麦粉の消費低迷から発生量も減少しているが、飼料需要も低調であり、需給バランスは取れている。今後は若干余剰感が出る見込み。東京五輪に向けた鋼材需要等により内航船の確保が難しくなっている。グルテンフィードは発生量が減少し、需給はひっ迫した状況。輸入品は、主な輸入元である中国は高値推移で、総じて強含みの展開。</p>
海上運賃	<p>貨物の動きに一服感が出たことから、会場運賃は一時的に下落している。冬場の燃料等の荷動き期待から、今後は堅調に推移する見込み。</p>



輸入粗飼料の情勢 平成26年11月

北米コンテナ船 フレート	米国西海岸港湾の労使交渉の影響により、主要港のシアトル/タコマ港でスローダウン（故意に荷役作業を遅らせる）戦術から、港湾がクローズする“ブレ・ロックアウト”の状態になっている。また、中国の大型連休での貨物増加やシャーシ不足による荷動き遅延も影響し、非常に混雑している。今後もスローダウン戦術が他の港へ波及していき、さらに混乱する可能性がある。
外国為替の影響	円安・米ドル高の勢いが止まらず、安倍政権の解散発表からさらに円安が進んでいる。産地価格がドル建てで高いがゆえに、円貨では大きな値上げとなるため、注意が必要。
カリフォルニア州 の干ばつの状況	昨冬から干ばつ傾向が続いているが、一年近く経った現在も回復せず、むしろ悪化している。今年の春には、放牧用牧草にも影響が出たため、肥育農家からの乾牧草の引合いが強まり、アルファルファ高騰要因の一つとなった。干ばつの回復には、この秋冬の降雪量が鍵となる。
ビートパルプ	【米国産】14年産収穫が9月上旬より開始し、9月中旬から各地で製糖作業が始まっている。産地では冷涼な気候により、生産量は1割減の見込み。
アルファルファ	【総合】全体の生産量は増加見込みだが、良品は西海岸全体で不足している。米国内は酪農・肥育向け共に引合いが強く、輸出向けも強いままで推移している。西海岸アルファルファ生産量のうち3%未満しか出荷されていない日本向けの意向は届きにくく、今後も産地価格が極端に下がることはないと考えられる。15年産は作付面積が増える見込みのため、価格の軟化が期待されるが、米国乳価や干ばつ、牛肉の相場価格次第では軟化しない可能性もある。
	【ワシントン産】産地では一部で5番刈の収穫が進むが、単収が少なく乾燥も間に合わないため、大半は国内向けとなる見込み。14年産は、2番刈以降は雨当たり被害が多く、ノーレイン品もドライ傾向で良品は少ない。
	【オレゴン産】産地では3番刈の収穫が終了。クリスマスバレーでは1番刈で5割、2番刈で7割と雨当たり被害があり、どの番手でも良品が極端に少ない傾向。
【ネバダ産】1-2番刈で4～5割、3番刈は一部の雨当たり被害が発生した模様。どの番手も良品は少ない。	
チモシー	【米国産】産地では2番刈の収穫が終了。雨当たり被害がほとんどなく作柄が良好となった1番刈とは対照的に、2番刈は4～5割の雨当たり被害が発生した模様。1番刈の産地価格は昨年よりも軟化傾向だが、期待されたほどの値下げには至らず、同じく作柄が良かった3年前より高値で推移している。
	【カナダ産】レスブリッジでは、1番刈は大半が中間グレード以下、2番刈は中間グレード品が中心の作柄となった。クレモナでは、過去最悪に近いほど深刻な状況で、酷い雨当たりも発生している。両産地とも1番刈の価格は軟化傾向だが、作柄が悪いため徐々に高くなりつつあるのが現状。
スーダン	【インペリアルバレー産】デュラム小麦の作付面積が減少したことから、早播きスーダンの作付面積は増加した。2回目の収穫が可能な早播きが増えていることから、生産量は昨年よりも増加見込み。早播き1番刈は莖サイズのバラつきがあまりなく、前半戦は過去3～4年で最高の作柄と言われている。デュラム小麦の相場価格が9月より値上がりして推移している模様。デュラム小麦の相場価格によっては、15年産の早播きスーダンの作付面積の減少が懸念される。
クレイングラス	10/15時点での作付面積は前年対比94%。3番刈以降は、豪雨や湿度の影響も一部あったものの、輸出向けの需要を賄えるだけの生産量は十分にある見込み。産地価格は、韓国・日本向け共に引合いが強く、堅調に推移している。それでも科本科牧草の中では割安感があるため、他草種からの切り替えも有益であると思われる。
バミューダ	10/15時点での作付面積は、前年対比94%。例年1番刈は種取り用圃場が中心で、ヘイの生産は2番刈以降が中心となり、14年産では収穫がほぼ終了した。豪雨や湿度の影響で、良品の発生は限定的となっている模様。
ストロー類	14年産の米国産ストロー類は収穫が終了。トールフェスクは7割、ベレニアルライグラスは5割の雨当たり被害が発生している模様。韓国・日本向け共に引合いが弱く需要が減退しているとも伝えられているが、徐々に回復しているとも言われている。
オーツヘイ	産地では14年産の収穫がほぼ終了。西地域は雨当たり品が多く発生し、ハイグレード品の発生は限定的になることが見込まれる。小麦やキャノーラの作付けが増えていることから、作付面積は1～2割減が予想される。それに比べ、南地域は4割、東地域は7割程度がハイグレード品となっている模様。ただし、東地域は干ばつ傾向で、放牧用の牧草の生育に影響が出始めていることから、国内向けの引合いが強くなることが予想される。

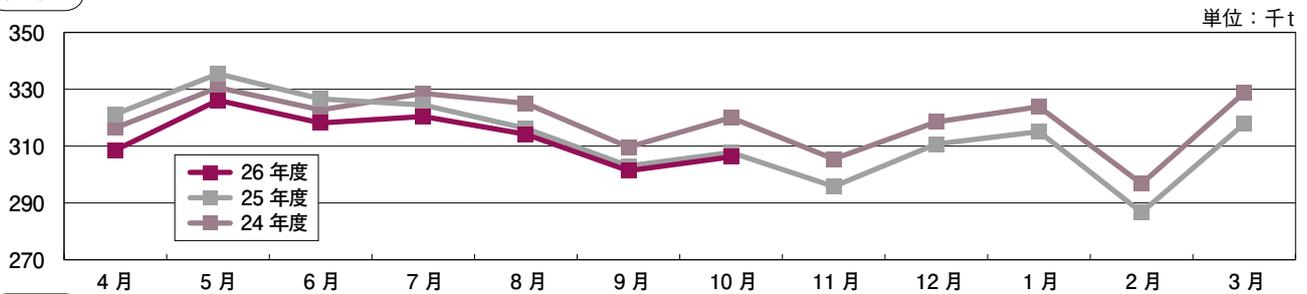
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

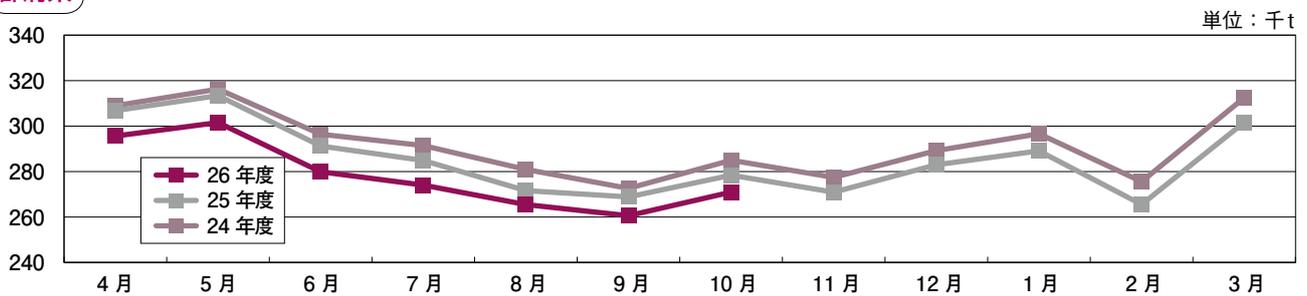
全国 577,171t で、前年同月比 8,985t(1.5%) 減少 都府県 270,964t で、前年同月比 7,437t(2.7%) 減少

北海道 306,206t で、前年同月比 1,548t(0.5%) 減少

北海道



都府県



用途別販売数量

飲用向 293,539t で、前年同月比 1,788t(0.6%) 減少

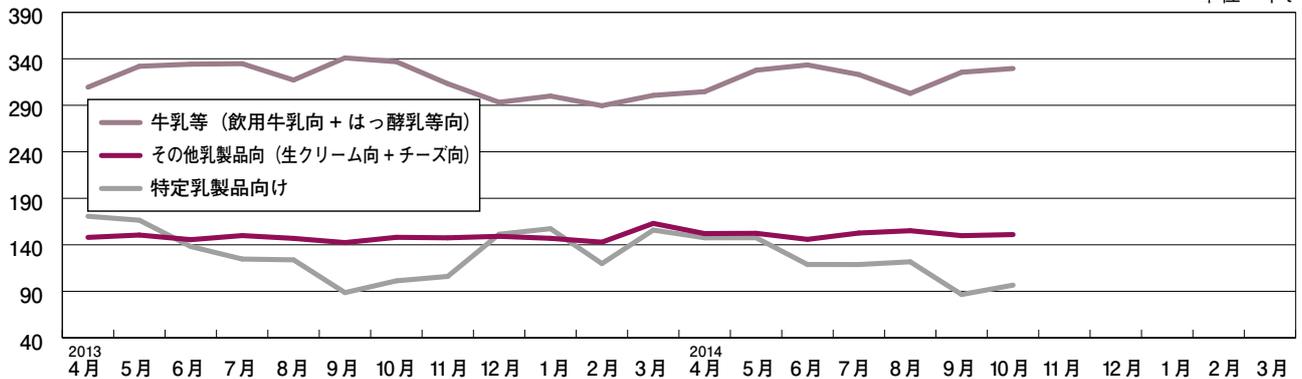
はっ酵乳向 36,014t で、前年同月比 5,492t(13.2%) 減少

クリーム向 116,571t で、前年同月比 7,293t(6.7%) 増加

チーズ向 34,431t で、前年同月比 4,337t(11.2%) 減少

特定乳製品向 96,615t で、前年同月比 4,662t(4.6%) 減少

単位: 千t



各地の需給動向

【東北】生産は前年比 96.2%。域内の乳業者は計画よりも販売が伸びず処理が減少したが、域外では逼迫感があり、飲用に向けられた。その結果飲用牛乳向け 97.2%、特定乳製品向け 92.4% となった。

【関東】生産は日量ほぼ横ばいで、前年比 98.1%。処理は 9 月のトレンドと比較すると、各社増加傾向。2 週連続で台風が上陸したが、大きな影響はなかった。飲用牛乳向けは前年比 97.8%、特定乳製品向けは 90.6% となった。

【東海】生産は前年比 96.4%。乳業者の処理は好調であったが、生産の減少が大きく、要望に応えられない場面もあった。飲用牛乳向け 98.5%、特定乳製品向け 97.1%。

【近畿・中国・四国】生産は近畿 95.1%、中国 96.0%、四国 95.5%。乳業者の処理は、気温が高かったこともあり、計画ほど落ちず、中旬までは逼迫感が強かった。(飲用牛乳向け前年比: 近畿 95.2%、中国 95.9%、四国 97.4%)

【九州】生産は昨年落ちていた裏返しもあり、前年比 99.3%。処理は 9 月末から域内各社好調が続いた。逼迫感が強かったが、月末には落ち着いた需給となった。飲用牛乳向け 98.0%、特定乳製品向け 102.6% となった。

用途別生乳処理量

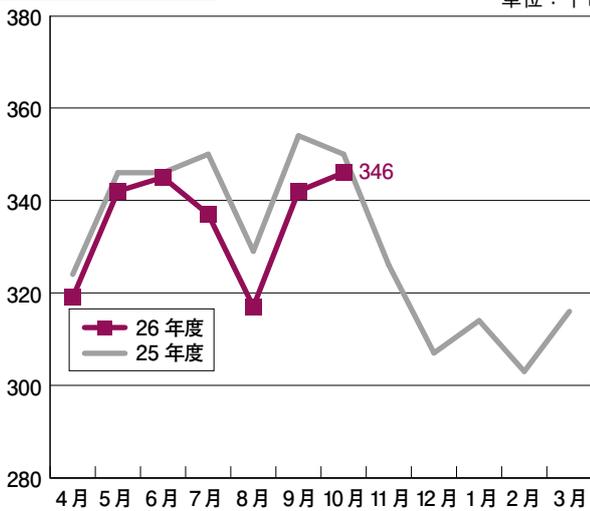
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向		乳製品向				
		①	②	特定乳製品向		その他乳製品向		
				クリーム向	チーズ向	③	④	
2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	593	588	354	235	91	144	107	37
10月	608	604	350	253	104	150	109	40
11月	588	583	326	257	108	149	111	38
12月	616	612	307	305	153	151	114	37
2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47
2月	573	568	303	265	121	144	102	43
3月	643	638	316	322	159	163	117	47
年度計	7,447	7,390	3,964	3,426	1,626	1,800	1,298	502
2014. 4月	627	622	319	303	148	155	112	43
5月	650	645	342	303	148	155	112	44
6月	619	614	345	269	120	149	108	41
7月	618	613	337	276	120	156	113	43
8月	600	595	317	278	126	153	111	42
9月	583	578	342	236	88	148	109	39
10月	598	593	346	247	100	148	112	36
11月								
12月								
2015. 1月								
2月								
3月								
年度計	4,296	4,260	2,348	1,913	850	1,063	776	287

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

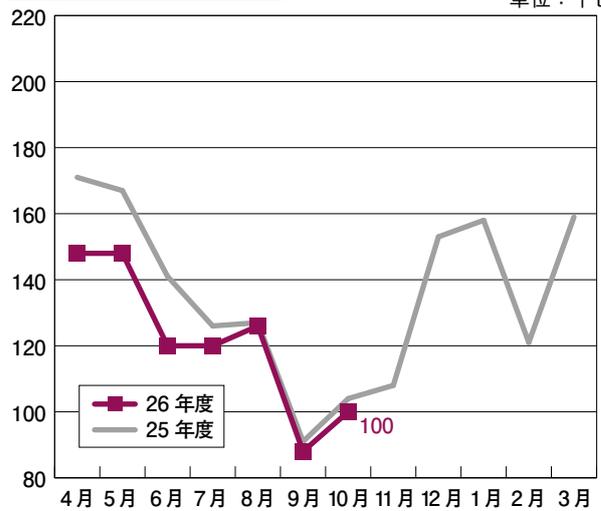
① 牛乳等向処理量

単位：千t



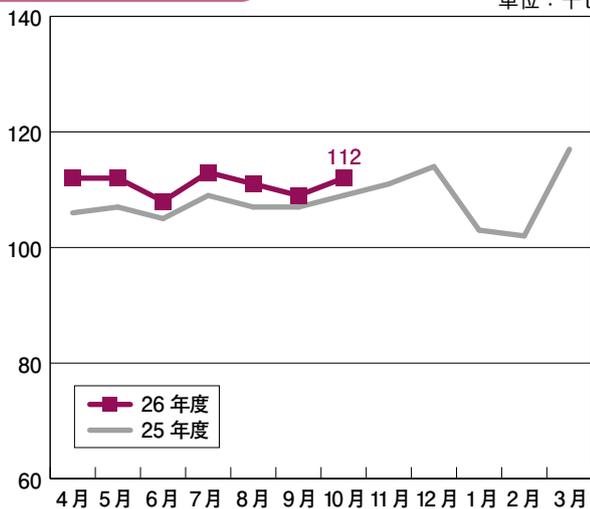
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



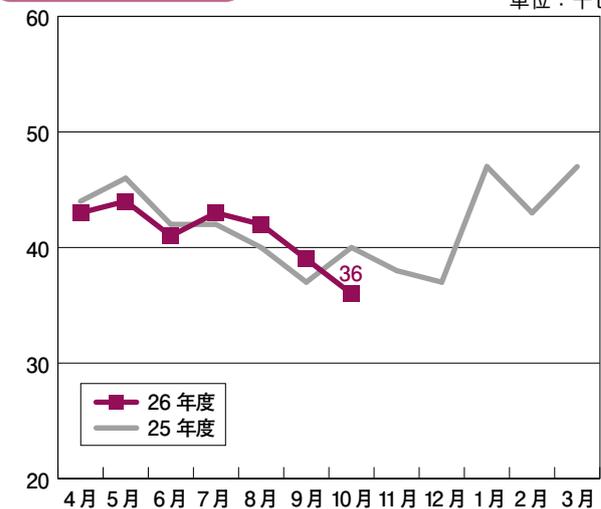
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

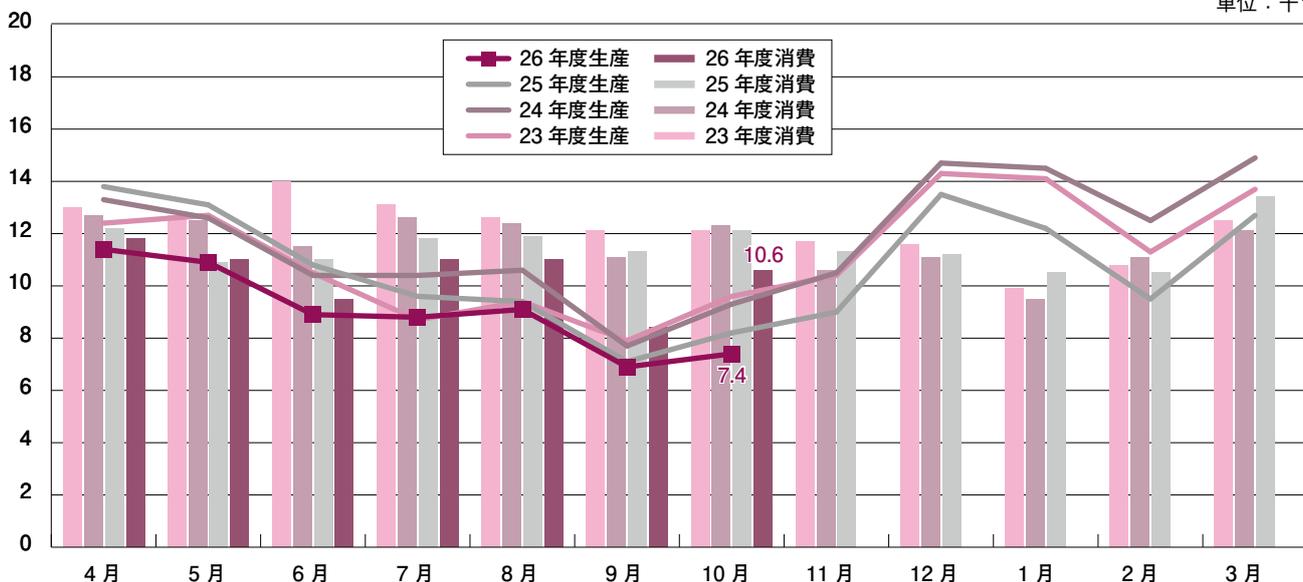
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1	2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4
5月	13.1	10.9	7.0	5.5	5月	10.9	11.0	5.7	5.0
6月	10.8	11.0	5.7	5.8	6月	8.9	9.5	4.9	4.7
7月	9.6	11.8	5.1	5.8	7月	8.8	11.0	4.7	5.7
8月	9.4	11.9	5.1	5.7	8月	9.1	11.0	4.7	5.2
9月	7.1	11.3	3.6	5.0	9月	6.9	8.4	3.5	3.7
10月	8.2	12.1	3.9	5.5	10月	7.4	10.6	3.9	5.2
11月	9.0	11.3	4.2	6.2	11月				
12月	13.5	11.2	5.5	7.3	12月				
2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9	2015. 1月				
2月	9.5	10.5	4.8	5.7	2月				
3月	12.7	13.4	6.0	6.9	3月				
年度計	128.8	138.0	64.3	70.5	年度計	63.4	73.3	33.7	35.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

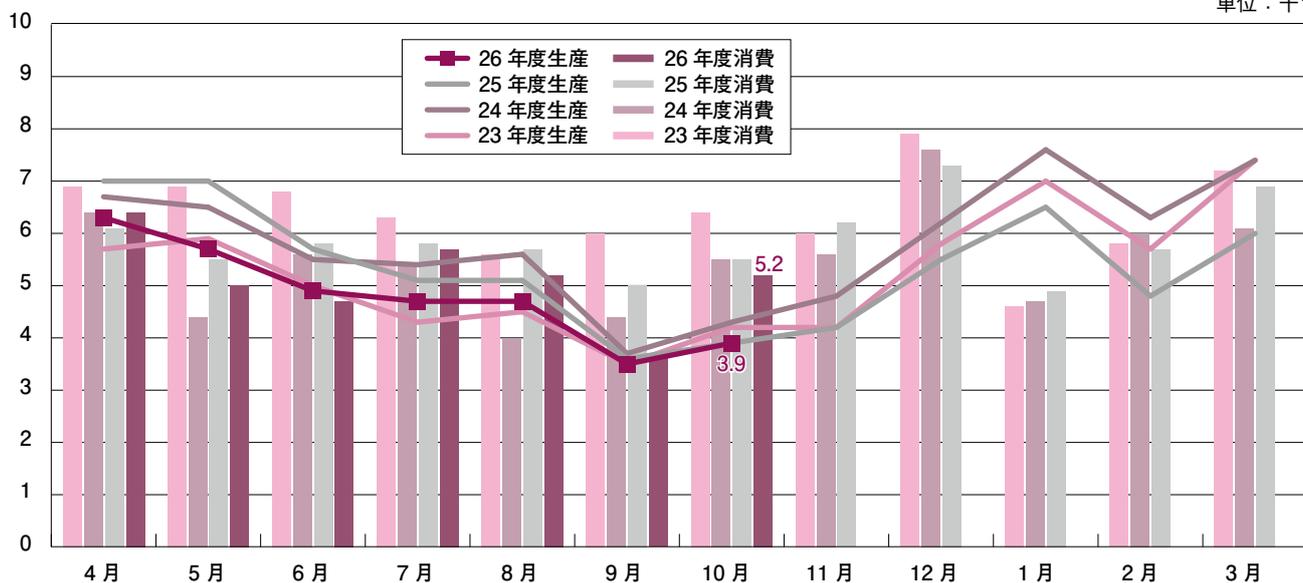
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

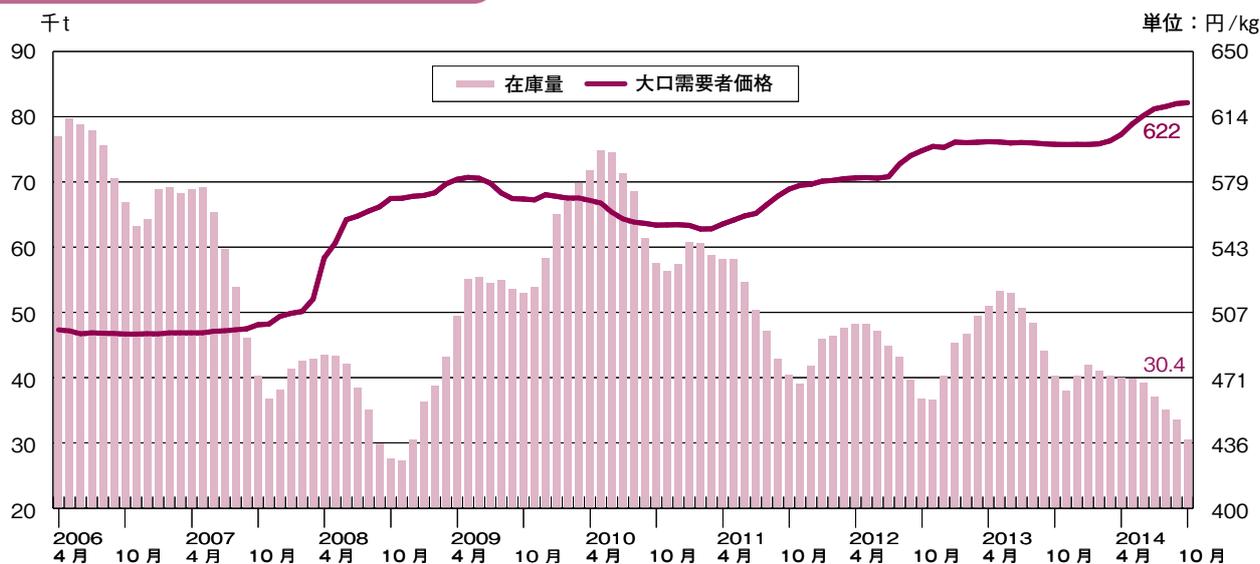


脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

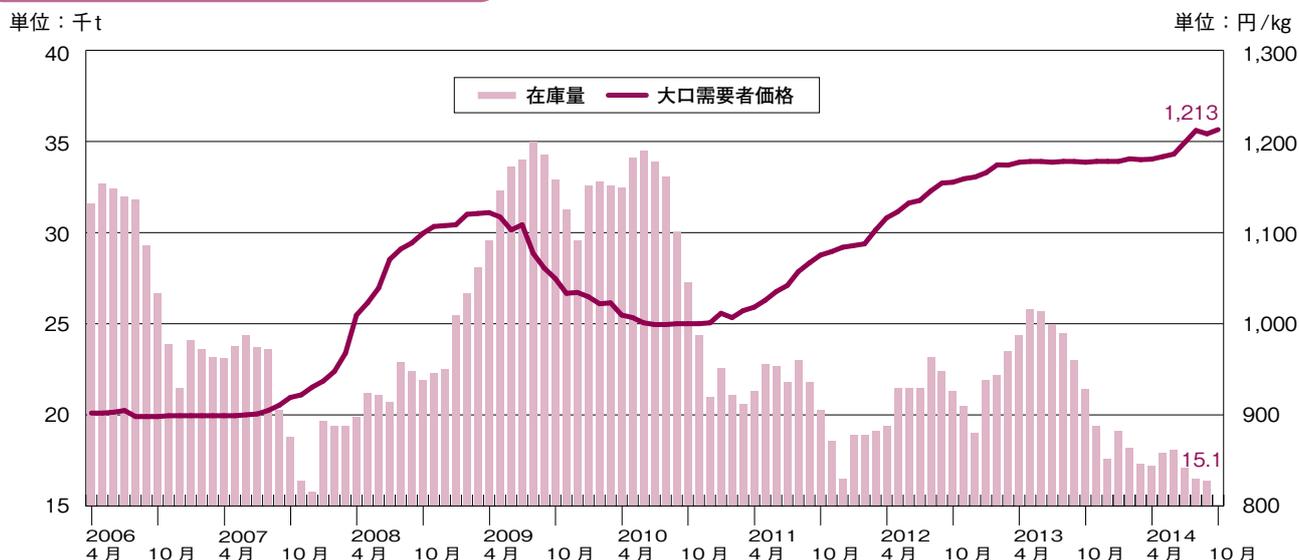
区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2013. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2014. 4月	17.2	1,181	39.9	604.56
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	17.9	1,183	39.8	610.30
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	18.1	1,186	39.2	614.85
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	17.1	1,199	37.0	618.63
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	16.5	1,212	35.1	619.85
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月	16.4	1,208	33.6	621.48
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月	15.1	1,213	30.4	622.00
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2014. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2015. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	—	526.2	—	年度計	118.3	—	255	—

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



バター 国内在庫・大口需要者価格推移



酪政連活動報告

平成 26 年 9 月～ 26 年 11 月

日本酪農政治連盟

10/16	三役会議 ◆ 最近の酪農対策について、検討、協議	11/5	民主党に対し、平成 27 年度税制改要望を要請
10/24 } 10/28	TPP 閣僚会議(シドニー)に畜産ネットワーク代表団の一員として参加 (佐藤副委員長・斉藤幹事長)	11/7 } 11/11	TPP 閣僚会議(北京)に畜産ネットワーク代表団の一員として参加 (佐藤副委員長・斉藤幹事長)
10/29	畜産ネットワーク報告会(TPP 閣僚会議「シドニー」)に出席 (佐々木委員長・佐藤副委員長・斉藤幹事長ほか) 於:全国町村会館	11/12	畜産ネットワーク報告会(TPP 閣僚会議「北京」)に出席 (佐々木委員長・斉藤幹事長ほか) 於:中央畜産会
10/30	農林水産戦略調査会・食料産業調査会・農林部会・農林水産関係団体委員会・農政推進協議会合同会議(自由民主党)にて平成 27 年度農林・食品関係税制改正に対する団体要請に参加、平成 27 年度税制改要望を要請 (大槻副委員長・斉藤幹事長ほか)	11/21	三役会、常任・中央常任委員合同委員会 ◆ 衆議院解散総選挙対策について協議
		11/21	酪政連衆議院総選挙激励決起集会を開催 ◆ 自由民主党酪政会の国会議員に対し激励会を開催

2015年農林業センサス にご協力ください



「農林業センサス」は、我が国農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料を作成し、提供することを目的に、5年ごと(西暦の末尾が0と5の年)に行う調査です。

全国の農林業経営体数等の経営体の状況、農業就業人口等の世帯員の就業構造、経営耕地面積等の生産構造、農地・森林等の地域資源の状況及び農業集落内での活動状況等の農山村の実態が明らかになるとともに市区町村別や農業集落別などの小地域における基本的な農業構造も明らかになります。

(農林水産省HPより)

詳しくは下記URLをご確認ください!

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc2015/>



「哺育・育成牛、移行期牛の管理」

～研究と農場を結びつける～

全酪連は、2015年1～2月にバージニア工科大学酪農学部教授 ボブ・ジェームス博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成26年度）を開催いたします。講師のジェームス博士は、生産現場における普及活動に長く貢献されている人物です。今回の酪農セミナーでは、特に移行期牛および新生子牛管理の現場で役立つ内容をより現実的な視点で紹介する予定にしています。また、セミナーとは別に、研究者・指導者の皆様のために最先端情報を整理するワークショップも開催します。是非ご参加ください。

講師略歴



ボブ・ジェームス博士
(バージニア工科大学 酪農学部 教授)

- 1971年 デラウェア大学を卒業
- 1974年 バージニア工科大学・酪農普及員として酪農現場の普及活動
- 1975年 バージニア工科大学にて修士号取得
- 1978年 同 大学にて博士号取得
- 1980年 同 大学 酪農学部助教授
- 1984年 同 准教授
- 1998年 同 教授

【研究分野】

- 育成牛の飼料摂取量回帰式の開発
- 発育中の子牛と育成牛の栄養要求量の確定
- 販売不可能乳(廃棄乳)の管理と給与に関する研究
- 自動哺乳機による哺育子牛の管理
- 哺育子牛の栄養とその免疫機能・乳腺発達
- 牛群全体の栄養素の出納改善

日時と場所

1月30日 金	熊本セミナー	火の国ハイツ
2月 2日 月	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月 4日 水	名古屋セミナー	名鉄ニューグランドホテル
2月 6日 金	仙台セミナー	フォレスト仙台
2月 9日 月	帯広セミナー	北海道ホテル
2月10日 火	全酪連ワークショップ(帯広)	北海道ホテル
2月12日 木	東京セミナー	目黒雅叙園

各会場とも開会は10:00、閉会16:00となります

参加費

1名様 ¥5,000 (テキスト・昼食代含む)

対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

酪農セミナー2015

第1章 乾乳牛管理が乳牛の健康・成績・哺育子牛に対して及ぼす影響

- 乾乳管理の基本原則
- カウコンフォート／栄養指針／乾物摂取量／飼料給与管理／群分け
- 乾乳牛管理が子牛に及ぼす影響
- バージニア工科大学の移行期牛研究結果

第2章 新生子牛の管理～新生子牛のチャレンジ～免疫・環境温度・体組成

- 分娩環境
- 初乳管理～なぜ初乳が重要なのか
- 子牛の環境／行動、衛生
- 初乳のパスチャライズ
- 新鮮な初乳、凍結初乳、発酵初乳、初乳製品の違い

第3章 哺育(離乳前)子牛の管理

- 成長に見合う栄養要求の考え方
- 期待可能な子牛の発育～成熟体格との関係～
- 成長とは何か? 異なる給与プログラムごとの体組成
- 発育の可能性を考慮した給与
- 販売不可能乳(廃棄乳)の問題点と給与管理
- 2回哺乳 vs. 3回哺乳、自動哺乳機の管理

第4章 離乳後から授精まで～成功裏に離乳する

- 育指標のゴール～成熟体格に対する% vs. 体高と体重
- 3か月齢から授精までの給与プログラム

ワークショップ2015

- 預託育成のプロとは?
- 酪農家の自家育成 vs. 預託農家による育成
- 育成コストの高い時期を認識する
- 米国における自動哺乳プログラムの事例紹介
- 北海道の生産現場で抱える課題／ディスカッション

北海道 乳牛産地情報

平成26年12月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計98.4%、累計97%、苫小牧管内月計100.4%、累計99.9%の実績。12月の初妊牛動向は2月~3月上旬腹が中心となり、初妊牛は例年並みの頭数が出品される見込み。販売される腹はF1腹が大部分を占める。また、札幌管内は育成牛の資源が豊富にあり、育成牛の販売に力を入れる傾向にあるが、道内の大型牧場が増頭に伴い、育成牛の導入も頻繁に行われている。初妊牛・育成牛ともに牛の品質による価格差が大きくなっている状況。
	初妊牛	48~55	→	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	▼	11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計99.3%、累計96.9%、中標津管内月計99.8%、累計97.3%の実績。12月の初妊牛動向は2月~3月上旬腹が中心。F1腹とホルズ選別腹の需要が高く、特に選別腹は地元の新規就農者などに需要が高く、引合いが強い。道内外問わず、メガファームの導入は継続して行われており、価格も中クラスを中心に高値安定。年明けは、生乳生産量維持のために自家保留する牛も多くなることが見込まれる。
	初妊牛	50~56	▼	
	経産牛	45~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	27~34	→	11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計102.1%、累計100.1%の実績。12月の初妊牛動向は、2月腹中心の荷動き予想。年末に向けて販売をする農家も多く、出品頭数は増加すると思われる。道内のメガファームの購買や都府県の需要増加により引合いは弱まらず、価格も横ばいで推移する見込み。年明けからの価格高騰が予想され、1月販売の中心となる3月腹は早い時期から荷動きが激しくなるものと思われる。
	初妊牛	50~57	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~34	→	11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計100.1%、累計97.9%、北見管内月計100.3%、累計99.3%の実績。12月の初妊牛の動向については、2~3月腹が中心となりF1腹の需要が大半を占め、続いてホルズ選別腹、ホル腹の順の需要。初妊牛の資源としては各地区とも豊富にようだが、道内大型牧場の引合いも引き続き強いいため、地域により価格差は多少あるが、価格は横ばいで推移する見込み。
	初妊牛	50~55	→	
	経産牛	40~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~35	▼	11月中旬までの生乳生産量前年比は100.4%、累計98.4%の実績。12月の初妊牛動向は2月~3月上旬分娩腹が中心。道内の生乳生産が伸び悩んでいること、道内組合員の年内資金確保のための販売、新規就農者の増頭等、また生乳生産量確保のための導入助成などの道内各地域での増産対策、道内外のメガファームの導入などが絡み、購買が集中することが予想される。年明けについては春分娩中心となり、例年であれば価格も上昇する見込み。年内は12月20日頃が最終輸送となるため、注文の際は12月上旬までに最寄支所まで連絡をお願い致します。
	初妊牛	50~56	→	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

パドックデビュー

今月の表紙は、「第5回酪農いきいきフォトコンテスト」(第43回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「パドックデビュー」(栃木県 小森 美佳氏 撮影)です。お天気の中、軽やかに走る牛は馬のように晴れやかですね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼この間2014年になつたと思つたら、あと1か月となつてしまいました。皆様にとつての2014年はどんな年だったでしょうか？

編集後記

お詫びと訂正

全酪連会報前月号でご案内致しました「冬のギフトセット」のうち、「全酪ぬるチーズセット」につきまして、誠に申し訳ありませんが、事情により取扱を中止させて頂きます。お客様には多大なご迷惑をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げますとともに、特段のご理解を賜りますようお願いいたします。なお、「全酪ぬるチーズセット」以外のギフトセットにつきましては、さきにご案内致しましたとおりですので、引き続きご利用をお待ち申し上げます。

本誌11月号(No.590)22頁に掲載しました「らくのうこどもギャラリー入賞作品紹介」の記事、「全酪連カレンダー2015」の7-8月で掲載しました写真の表記に誤りがありました。関係各位にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げますと共に、訂正いたします。
 本誌11月号 22頁 <誤> 「美里小学校(九州)2年 山崎 優依さん」 → <正> 「三里小学校(九州)3年 山崎 優依さん」
 全酪連カレンダー7-8月 <誤> 「鳥取県 山下牧場」 → <正> 「岡山県 水島牧場」

平成26年12月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 12月号 No.591

●編集・発行人 中島 裕志郎
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>

1月

新年のご挨拶 2
 全国酪農協同組合連合会 代表理事会長 砂金基太郎
 農林水産省生産局長 佐藤一雄
 ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 報告(後編) 5
 ご当地牛乳・乳製品特集(仙台支所管内) 8
 購買部だより / 第13回全酪連肉牛枝肉共助会 9
 嫁・婿が語る酪農の魅力 / 安富 由美子さん 10
 酪農トピックス / 第4回 東京支所管内「会員女性職員研修会」開催!!(東京)ほか 12
 日本酪農見て歩紀 / 秋田県鹿角市 井口幸雄牧場 17
 酪政連活動報告 20
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成25年12月) 22
 平成25年度11月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 24
 広告 / ハイパフォーマン스에挑戦! 25
 広告 / ニューメイスター 26
 今月の表紙 / メリーちゃんと仲良し 27
 今月の子どもギャラリー / 福島第二小学校(東北)6年 遠藤 晃彦 28

2月

若手後継者の本音 / 田中 徳広さん 2
 ご当地牛乳・乳製品特集 / 東京支所管内 4
 管理部だより / スマートデバイスの業務利用 5
 酪農トピックス / 鹿本酪農農業協同組合(南イ・エッチ・ファーム 谷 秀則さん・珠美さん
 「第52回農林水産祭 畜産部門天皇杯受賞祝賀会」開催される(福岡)ほか 8
 日本酪農見て歩紀 / 北海道豊富町 柳楽牧場 11
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年1月) 14
 平成25年度12月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 16
 全国酪農青年女性会議 平成25年度研修会 20
 広告 / ハイパフォーマン스에挑戦! 21
 人事異動 22
 今月の表紙 / いい匂いの草だな 23
 今月の子どもギャラリー / 山之口小学校(九州)5年 原田 清花 24

3月

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 高嶋 和磨さん 2
 ご当地牛乳・乳製品特集(名古屋支所管内) 4
 平成25年度 監事・役員研修会 5
 平成24年度 会員概況調査より 6
 酪農トピックス / 「生きる」を学ぶ酪農教育(福岡)ほか 10
 日本酪農見て歩紀 / 沖縄県南城市 アーミファーム様 13
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年2月) 16
 平成25年度1月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18
 作品募集のお知らせ 22
 広告 / ドライ&フレッシュSE 23
 酪政連活動報告 24
 今月の表紙 / ごはんまだーみんなまってるよ! 25
 今月の子どもギャラリー / 中川小学校(西日本)1年 鳥越 瑞希 26

4月

若手後継者の本音 / 田島 祐樹さん 2
 ご当地牛乳・乳製品特集(大阪支所管内) 4
 第65年度(平成26年度)事業計画案 6
 酪農トピックス / 全国酪農青年女性会議役員・飯館村を訪問(仙台)ほか 10
 日本酪農見て歩紀 / 群馬県高崎市 柴山宗生牧場 19
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年3月) 22
 平成25年度2月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 24
 人事異動 28
 広告 / ドライ&フレッシュSE 29
 今月の表紙 / 「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品 30
 今月の子どもギャラリー / 大家小学校(関甲信)3年 長井 奏美 31
 広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会 32

5月

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 石賀 智美さん 2
 ご当地牛乳・乳製品特集(福岡支所管内) 4
 監査室だより / [第1回]これからの監査のあり方について 6
 JA全国監査機構 監査企画部 担当部長 白石 幸人氏 講演録
 酪農トピックス / 千葉県みるく農業協同組合が設立される!!(東京)ほか 10
 日本酪農見て歩紀 / 宮城県栗原市 佐々木純牧場 16
 酪政連活動報告 19
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年4月) 20
 平成25年度3月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 22
 人事異動 26
 広告 / ドライ&フレッシュSE 27
 今月の表紙 / ちゃんと食べやすくするから、待ってよ! 28
 今月の子どもギャラリー / 大野幼稚園(東北)5歳 鈴木 里桜 29
 広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会 30

6月

第43回 全国酪農青年女性酪農発表大会 発表者決定!! 2
 若手後継者の本音 / 伊藤 大地さん 6
 酪農トピックス / 「福島の酪農PRキャンペーン」を東京・日本橋にて開催!
 (福島県酪農協より)ほか 8
 栄えある春の叙勲褒章 12
 日本酪農見て歩紀 / 北海道陸別町 菅野政美牧場 13
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年5月) 16
 平成26年度4月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18
 監査室だより / [第2回]これからの監査のあり方について 22
 JA全国監査機構 監査企画部 担当部長 白石 幸人氏 講演録
 酪農部だより / 全酪連ギフト商品について 27
 広告 / 全酪連の夏ギフト 29
 今月の表紙 / 大好きな場所 32
 今月の子どもギャラリー / 希望ヶ丘幼稚園(東北)5歳 遠藤 結 33
 広告 / 全国酪農青年女性酪農発表大会 34

7月

父の日に牛乳を贈ろう! 2
 「後継者支援チーム」活動報告 8
 第41回らくのう子どもギャラリー入賞作品紹介 9
 嫁・婿が語る酪農の魅力 / 柳澤 聡さん 12
 監査室だより / [第3回]これからの監査のあり方について 14
 JA全国監査機構 監査企画部 担当部長 白石 幸人氏 講演録
 購買部だより / DMSシステム 平成25年集計結果 18
 酪農トピックス / 「がんばろう東北の酪農」キャンペーン(仙台)ほか 20
 日本酪農見て歩紀 / 宮城県都市 池田利弘牧場 25
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年6月) 28
 平成26年度5月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 30
 酪政連活動報告 34
 今月の表紙 / いっぱい食べてね 35
 今月の子どもギャラリー / 馬場川小学校(北海道)6年 横山 恵也 36

8月

第65年度(平成26年度)通常総会開催される 2
 第43回 全国酪農青年女性酪農発表大会 5
 若手後継者の本音 / 今泉洋さん 12
 酪農トピックス / ふくおか酪農農業協同組合 尾形文清代表理事組合長
 旭日双光章受章記念祝賀会(福岡)ほか 14
 広告 / ドライ&フレッシュSE 16
 日本酪農見て歩紀 / 兵庫県明石市 伊藤牧場 17
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年7月) 20
 平成26年度6月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 22
 人事異動 26
 今月の表紙 / ぼくお手伝いできるよ 27
 今月の子どもギャラリー / 馬場川小学校(北海道)3年 森垣 華 28

9月

第43回 全国酪農青年女性酪農発表大会 2
 嫁・婿が語る酪農の魅力 / 寺島みち子さん 6
 酪農トピックス / 野口弘子氏 全国酪農青年女性酪農発表大会 最優秀賞受賞祝賀会
 盛大に開催される(東京)ほか 8
 日本酪農見て歩紀 / 愛知県西尾市 杉崎亮太牧場 9
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年8月) 12
 平成26年度7月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 14
 酪政連活動報告 18
 今月の表紙 / 牧場へようこそ 19
 今月の子どもギャラリー / 豊富小学校(中部)3年 小串 珠々 20

10月

若手後継者の本音 / 丸山昭博さん 2
 監査室だより / 健全な組織運営のための手法 4
 組合が取り組む後継者支援事業 / 福岡支所管内 6
 酪農トピックス / 復興牧場安全祈願祭&報道記者発表会を開催(福島県酪農協より)ほか 7
 日本酪農見て歩紀 / 栃木県那須町 薄葉恒夫牧場 9
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年9月) 12
 平成26年度8月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 14
 酪農業に対する理解を深めてもらうべく、PR活動を行います! 18
 「後継者支援チーム」活動報告 20
 今月の表紙 / 戦う男たち 21
 今月の子どもギャラリー / 岡山大学教育学部附属中学校(西日本)2年 仲原 柚奈 22

11月

嫁・婿が語る酪農の魅力 / 江崎美咲さん 2
 「理解醸成活動」東京・有楽町駅にて大々的にPR!! 4
 酪農トピックス / 西川農林水産大臣がミネロ牧場を視察(福島県酪農協より)ほか 5
 日本酪農見て歩紀 / 岩手県岩手町 山中博喜牧場 9
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年10月) 12
 平成26年度9月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 14
 広告 / 全酪連の冬ギフト 18
 今月の表紙 / うまさんとうしさん 21
 今月の子どもギャラリー / 三里小学校(九州)3年 山崎 優依 22

12月

若手後継者の本音 / 高山直樹さん 2
 組合が取り組む後継者支援事業 / 名古屋支所管内 4
 ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修報告(前編) 5
 栄えある秋の叙勲褒章 8
 酪農トピックス / 「ただいま〜です」復活魔王まつり2014!4年ぶりに開催!!(福島県酪農協より)ほか 9
 平成26年度 全酪連会員職員研修会 16
 日本酪農見て歩紀 / 北海道中標津町 株佐藤牧場 17
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年11月) 20
 平成26年度10月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 22
 酪政連活動報告 26
 広告 / 全酪連酪農セミナー・ワークショップ2015開催のご案内 27
 今月の表紙 / 「ノックデビュー」応募作品 28
 今月の子どもギャラリー / 豊富小学校(中部)3年 加藤 大地 30



ねむたそうな牛

豊富小学校(中部)3年 加藤 大地

今月の



入賞作品介绍



今月の入賞作品は、豊富小学校(中部)3年の加藤大地さんの作品です。
題名の通り、ねむたそうな牛さんを優しい色使いで表現した作品。絵具に混ぜる水の分量を調整して自分のイメージする色に作り上げています。水彩絵具を塗った後に、もう一度ペンで丁寧に形を強調して、しっかりした画面に仕上げられています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第41回らくのうこどもギャラリー」で全国451点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議